

〈特別インタビュー〉

棒で突っつかれたキスシーン

女優・元参院議員 山口淑子(李香蘭)さん

戦後は世相や価値観すべてが変わりましたが、それは映画の世界でも同じでした。今では想像できないかもしれないけれど、戦時中までの日本映画には接吻のシーンはありませんでした。男女が仲良くなつて接吻しそうになると、ちようどよく雨傘なんか下りてきてさえぎられたりしてね。

1948年に森雅之さんと共演した「わが生涯のかゞやける日」で、私にとって初めての接吻シーンがありました。撮影当日のスタジオはものものしい雰囲気、関係者以外は立ち入り禁止。スタッフはみんな照れてしまって、私もとまどいました。顔はどっちを向けているのか、手をどこに置いていいのかもわからないのです。時間もどのくらい接吻すればいいのかわかりませんでした。監督さんが「いい時間になつたら棒で足を突つつくから」って。50年にハリウッドに招待された時は、現地の記者会見で「キスを勉強しに来ました」って言いました。そうしたら、ジャパニーズアクトレスがキスを勉強しに来て男たちの行列ができた、ってジョークにまでなつたんですよ(笑)。

私はまじめだったんですけど。

それが今や、街中で恥ずかしげもななく接吻する人がいるのですね。昔だったら恋人と外で腕を組むくらいはするでしょうけど、それ以上は秘め事。秘め事だから美しいのです。今はあけすけになつてちよつとつまらないですね。

そうは言っても、戦後の歴史は女性があつたと思います。今を生きる女性たちには、自由に自分を確立していただきたい。だけど、そこに素直さだけではないでほしい。男の人に好かれるのも、やはりそういう女性ではないでしょうか。

構成 本誌・横山 健

◎やまぐち・よしこ

1920年生まれ。38年、李香蘭として女優デビュー。戦後も国際的に活躍。74年から92年まで参院議員を3期務める



写真展「おんな 立ち止まらない女性たち」は8月14日から東京都写真美術館で開催。また同名の写真集が朝日新聞出版から8月6日に発売

後半グラビアに続く